

学校関係者評価書

1. 本園の「建学の精神」

太陽のあまねくそのひかりでつつむ

太陽（自然）は万物を平等に照らし、慈しみ、はぐくみ育ててくれます。
園章にもありますように園のシンボルである「太陽」のあまねく光のように、
私たちは子どもたち一人一人と向き合い、大切に育てます。

2. 本園の教育理念・方針

グローバル化や ICT・人工知能などの急速な技術革新により、社会は大きく変化していきます。
本園では、子どもたちが 5 年後、10 年後も、キラキラと輝く目でたくましく生きていける
3 つの力を育みます。

教育の 2 本柱：「身体づくり」と「知能を育てる」！！

1. 子どもの持つ素晴らしい 力をぐんぐん伸ばす “土壌づくり”

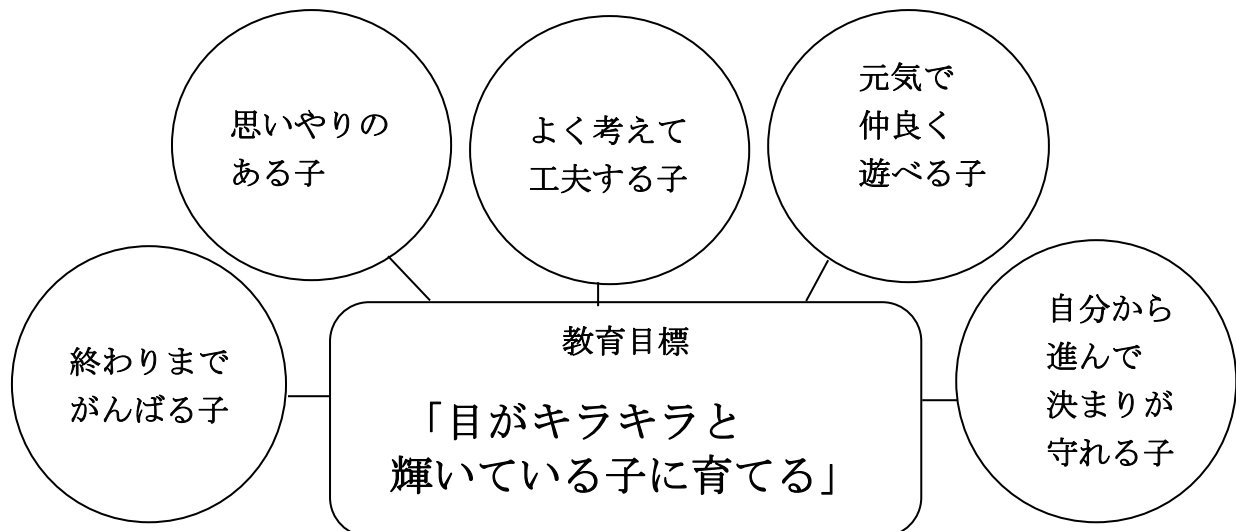
子どもの「やりたい」と
思う主体的意欲は、遊び
を通して得られる経験と
知識の中から芽生えます。
本園はその芽を大切にし、
自然に触れながら「健康
な心」を育み、広い園庭
と体育館で「身体づくり」
に励みます。

2. 人間として、たくましく “生きる力” を育む

本園の教育の 2 本柱となる
「身体づくり」と「知能を育
てる」を通して自らやる気
をもって、焦らずゆっくりと学
ぶ楽しさを培い、自ら夢中にな
って取り組む姿勢や思考
力・創造力・最後までやり遂
げる力を身に付けていきま
す。
本園は子どもの未来を見据
え、小学校に行ってから困ら
ない教育を目指します。

3. 他人を思いやる心を 持った子に育てる

本園では近隣の高齢者等
「施設訪問」の実施や、園
周辺道路を「あいさつ通り」
と呼び、あいさつ運動に取り
組むなど、地域の方との
交流を図っています。また
たてわり活動や併設保育園
「キッズハウスよいち」の
お友達とかかわる機会を大
切にし、お年寄りや幼い子
を「思いやる」優しい心を
育んでいます。



3. 教育課程（各学年の教育目標）

（満 3 歳児目標）	（年少組目標）	（年中組目標）	（年長組目標）
①園に慣れる ②基本的な生活の仕方を知り園生活を楽しむ	①基本的生活習慣を身に付ける ②集団生活に慣れる（毎日喜んで登園する）	①活動に進んで取り組み、最後まで頑張る ②友達と遊ぶ楽しさを味わう ③我慢する心を養う ④人の話を聴く態度を養う	①人の話をよく聴く ②意欲を持って最後まで頑張る ③自分の事は自分で責任を持ってやる ④誰にでも優しく思いやりを持つ ⑤我慢する心を持つ

4. 学校関係者評価委員会の評価結果

※評価の方法

A:充分達成されている B:達成されている

C:取り組んでいるが成果が充分でない D:取り組みが不十分

評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
I. 保育の 計画性	A	A	・子どもの目線に立ち、指示や支援が伝わりやすい配慮をしている。また、子どもの思いに寄り添い、意欲を引き出す指導計画の作成に取り組んでいる。子どもの個性を尊重し、多様性を認め伸ばすために、子ども理解と教員間の情報共有を大切にしている。 ・教育活動の中に様々な体験活動や発表会があり、多くの経験や子どもの活躍を見られる機会に恵まれ、保護者としては有難いが、ねらいの重複する活動や内容を絞り、分量を減らしても効果のある活動はできると思う。伝統も大切だが、子どもの実態を見て、見直しや精選もしていくべきだと感じる。 ・事前に何をやるのか等、しっかりと伝えてくれることで、「明日は〇〇するよ」「あと〇日寝たら〇〇だよ」と話すことが増え、先を見通す力が増したと感じる。等
課題に対する方策			・子どもたちが行事や活動に取り組む際に、「やるべきこと」や「活動内容」を視覚や聴覚を使って事前に把握できるようにし、楽しみながら活動していけるよう、今後も伝達方法を考えていく。 ・「子どもたちに経験させてあげたい」という思いが強まる余り、様々な遊びや活動を保育に取り入れているが、子どもや教師の心身のバランスを考え、心に余裕を持って楽しみながら活動していけるよう保育内容を見直し、反省を活かしながら保育展開をしていく。
評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
II. 保育の在り方 園児への対応	A	A	・教師間で子どもたちの様々な情報を共有し、最適な対処や対応方法を検討することが必要で、放課後や合間の時間を使って積極的に相談する等、一人一人の子どもを中心としつつ、教師間の連携を図り、チームで指導・支援するという意識の高まりを感じる。 ・幼児期の子どもの成長は著しく個々の進歩率には大きな差異も認められるため、どの子も安心できる場作りを考えたい。 ・担任を全面的に信頼していることが分かり嬉しい。 ・教師から名前を呼んであいさつしてもらい、子どもがスムーズに幼稚園へ行けている気がした。 ・トラブルの際、双方から話を聞き、どうしたら良いのかを一緒に考え、次の対応策を導き出してくれるため、子どもが素直に受け入れ理解することができている。 ・廃材でいろいろな物を作り「物を作る楽しさ」を知り創造力が育っていると感じる。等
課題に対する方策			・個々の育ちに合った声掛けや援助を心掛け、日々の保育と子どもとのかかわりを振り返ると共に、子どもの現れを教職員間で共有し合いながら、子どもたちが「安心・安全」な園生活を送れるよう今後も努めていく。 ・子どもたちの「興味・関心」がどこにあるのかを見極め「認知能力」と合わせ世界的に注目されている「非認知能力」が豊かに育つよう援助していく。

評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
Ⅲ. 教師としての 資質や能力 良識・適正	A	A	・「子どものため」という魔法の言葉で、あれもこれも抱えて大変になってしまうことがある。どれも子どもにとって良いことであることはわかるが、一つ一つを確実に指導・支援することが結果的に子どもにとって良いことだと思う。優先順位をつけ、最上位目標「目がキラキラと輝いている子」を目指して業務等を精選し、これからも丁寧な取り組みを大切にしたい。 ・教師の業務が多岐にわたり繁忙な中で、知識や能力の研鑽を積むことは大変なものと推察するが、日々の体験を検証し蓄積していくことが、教育者としての幅や奥行きを深めるものであり、取り組みの報告では実行されていると思う。 ・「今日はこんなことがありました」等のコメントを貰うことがあり、園生活が分かり良かった。 ・教師を見習い、子どもたちも「あいさつ」や「返事をする」「一生懸命取り組む」ことの大切さを学んでいる。また、個々の発達や得意不得意に差があることを考慮して、家庭とも連携を取りながら声掛けや指導をしてもらい有難い。 ・限られた時間の中で行事の準備や練習、園児や保護者対応等、とても良く尽力し素晴らしい。等
課題に対する方策			・子どもたちが「幼稚園は楽しい」「今日も行きたい」と思えるよう、教師が日々笑顔で子どもたちと接し、気持ちに寄り添いながら、「やりたいこと」が満たされるよう、環境を整えていく。 ・「報告・連絡・相談」を密に行う中で子どもたちの姿を共有し合い、個々の発達に合わせた対応を一人で抱え込まず、協同し合いながら対応していく。
評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
Ⅳ. 保護者への 対応	A	A	・子どもたちの素敵な表情が満載のおたよりや行事等、情報発信を適切に行い、保護者からの理解に努めている。子どもの様子を伝える際には、主任や管理職に確認する等、保護者が安心できるような誠実な対応を心掛けている。 ・当園は高い教育目標を標榜する特性から、当然保護者の園に対する期待値も高く、多様な要望もある中で教師たちが同じレベルのコンセンサスやスタンスを持ち合わせることが重要であり、努力している姿は認められる。 ・気になる事、困っている事があった際、教師に相談するとその都度子どもの変化を教えてもらい、園でどんな風に過ごしているのかが分かり安心できた子どもの様子の伝達、相談をし合えるツール（アプリ）等の DX 化が進むと、足並みを揃えて対応していけると思う。 ・入園前から顔と名前を覚えてもらい違和感なく入園することができた。等
課題に対する方策			・教師の資質や保護者への対応基準を統一。また安心してもらえるよう、立ち振る舞いに気を付けながら、保護者とのコミュニケーションを充実させていく。 ・保護者からの意見を率直に受け止め、反省、改善していくと共に、園運営への理解と協力を求めていく。

評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
V. 地域の自然や 社会との かかわり	A	A	・地域に目を向けた指導や幼小の接続を意識した取り組み等がされている。また子どもたちの絵や手紙の掲示等を考え工夫している。小学校からも働きかけ、関係づくりを進めていきたい。 ・地域の方々や、小学校、各種店舗、自然等、その相手から体験することは園児たちの知識や経験の蓄積となり、将来への大きな基礎の一部となる。 ・小学校への見学は子どもにとって小学校生活をイメージし易く不安感を軽減するとても良い機会だと思う。小学校に負担がない形で今後も連携を行ってほしい。 ・地域の人にあいさつをすることが望ましいと、子どもたちに浸透してきている。幼稚園であいさつの基礎を学んだからだと思う。 ・地域にはいろいろな人がいるため、オープンな交流は安全上難しいと思う。地域の散策や施設見学等でも十分だと思う。 ・外部の講師を招きいろいろな体験をすることで、新しいことへの興味や経験が増え、子どもたちの成長に繋がっていると思う。等
課題に対する方策			・就学を控えた子どもたちが小学校生活をイメージし、安心して小学校に就学していけるよう、学校見学等の計画を小学校と連携して行っていく。 ・「あいさつ運動」を通して、社会の中で必要なコミュニケーション能力の基礎を培うと共に、地域散策等を行いながら、地域自然の変化に気付き、また地域の方との繋がりを大切にしていく。
評価項目	自己評価	委員会評価	学校関係者評価委員からのご意見
VI. 研修と研究	A	A	・教師のより良い活動作りや子どもへの支援方法等に対する思いに向上心を感じる。職員間のよい指導を見て学んだり、外部研修に参加したり、研修機会を確保できている。職員間の共有がより進むよう、伝達の機会や方法を考え、より向上して行ってほしい。 ・大事な子どもたちを預かり教育する当園においては、事故、災害への対処が重要で、インシデントの報告、検証、対応、防止策を確立することが重要である。勉強会等も定期的な開催が望まれる。 ・日々忙しく活動の準備や事務仕事に追われている中で、教師個人任せで継続して研修していくことは非常に困難だと思う。勤務時間内に研修や指導上の困り事を相談する時間をきちんと位置付け、どの教師も一緒に学べる機会を作る必要があると思う。知識や技術、ノウハウがそれぞれ積み上がり園全体で共有して使えるようになることで、教師が自信を持って安心して指導できることに繋がると考える。 ・研修実績がもっと分かるようになったら良いと思った。等
課題に対する方策			・教師間の意見交換や園外研修での、様々なテーマによる研修を重ね、知り得た情報を教師間で共有し、保育に活かしていくと共に、学んだ内容を保護者に分かりやすく公開していく。 ・日々の保育を振り返り、反省、改善を行い、より良い保育展開ができるよう努めると共に、日々変化する社会の動きにも目を向け、様々な知識を習得していけるよう努めていく。

令和 6 年度まとめ及び令和 7 年度への方針

1. 令和 6 年度のまとめ

今もなおインフルエンザ同様に新型コロナウイルス感染症への感染報告が聞かれる中、本園では日頃からご家庭にご協力いただき、園児だけでなく同居家族の体調をも把握し、第一ひかり幼稚園・キッズハウスよいちが同様の基準にて、感染防止対策を徹底し園運営を行ってきた。そして体調が優れない場合には無理をせず休息を取っていただく等、体調管理に努めていただくよう周知し感染拡大防止に努めてきた。

また、行事や参観会は「子どもたちの安心・安全」を第一に考え、活動内容に合わせてクラス別や学年別、全員での開催等の計画・実施をし、季節行事の集会は自由参加型の参観として保護者に周知し、子どもたちの様子を参観できる場を設けて開催してきた。そして面接では、保護者と直接会って話し合うことができ、園や家庭での子どもの様子を共有し合い、子どもたちの成長を促すための課題や手立てを見出すことができた。

また、近年地震だけでなく、豪雨災害や山林火災等により甚大な被害を受け、今もなお避難生活を余儀なくされている方々がいる。静岡県においても台風 10 号の接近に伴う記録的な大雨により、令和 6 年 8 月 26 日（月）夕方から 9 月 1 日（日）にかけて断続的に雨が降り、27 日（火）から 31 日（土）にかけては非常に激しい雨や猛烈な雨が降ったところがあり、特に 8 月 29 日（木）と 9 月 1 日（日）には、賤機学区に近い、静岡市葵区の秋山川で川の一部が越水し、道路が冠水する等とし避難指示が発表される事態となったため、園児とその家族の安全確保のため、やむなく 8 月 30 日（金）と 9 月 2 日（月）の 2 日間を休園とした。

また、事故や災害に備え静岡中央警察署の交通課や葵消防署に依頼し、交通ルールや火災時の適切な避難の仕方について指導を受けた。

教職員間では、互いに協力し合い「できること」を見つけて実施し、教師の心身バランスの崩れにより、子どもたちが「不安」や「危険」にさらされえないよう、教職員間のコミュニケーションを大切にし、情報の交換・共有をしてきた。

今後は、教師一人一人が心に余裕を持って保育に取り組める環境が整えていけるよう努めると共に、引き続き危機管理について園内で話し合い、子どもたちが安心して伸び伸びと園生活が送れるよう「安全面」に配慮し、安全対策における知識と技術の習得に努めていく。そして体験活動の取り組みを大切にし、子どもたちが「やりたい」と思うことを活動（遊び）に取り入れていき、様々なアイディアが言葉だけでなく、個々が得意とする分野（絵画・工作・劇遊び等）にて、思いを表現し「自信」へと繋げていき、「幼稚園は楽しい」と思える園運営に努め、園と家庭とが力を合わせて子どもたちの成長を見守っていく。

2. 令和7年度取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み
あいさつ運動の励行	・「あいさつ運動」を通して教師や友達と「元気で明るいあいさつ」を交わし、気持ちよく一日がスタートできるようにすると共に、TPOに合わせたあいさつができるよう指導を継続していく。 ・あいさつを通して培った「コミュニケーション能力」を基に、「自己表現力」の向上へと繋げられるよう、一人一人の気持ちに寄り添い受け止めていき、「幼稚園は楽しい」「幼稚園が好き」になってくれるよう努めていく。 ・「あいさつ運動」を通して地域の人と顔見知りとなり、卒園後も繋がりを持てるよう、「あいさつの基礎作り」をしていく。
子どもたちが健康で安心・安全な環境の中、のびのびと園生活を楽しむ	・子どもたちの興味・関心事を見極め、「考える力」「夢中になって遊ぶ力」がより一層育めるよう、活動（遊び）に取り入れていくと共に、子どもたちの目がキラキラと輝き「幼稚園に行きたい」と思えるよう、園生活への期待が持てる声掛けをしていく。 ・季節の変化や植物の成長に気付く自然体験を通して、豊かな心を育んでいく。 ・様々な活動に消極的になり失敗を恐れる子や、言葉で気持ちを伝えることが苦手な子が、得意とする分野（絵画・工作・劇遊び等）で思いを表現し、「自信」や「自己肯定感」「最後まで頑張る力」等の非認知能力を培っていけるよう、成長・発達に合わせた活動（遊び）を取り入れ、集団で遊ぶ楽しさを味わえる環境を整える。 ・子どもたちの些細な表情や体調の変化を見逃さないよう、注意深く視診していく。 ・英語のアニメや音楽を聞き、視覚・聴覚から「英語に触れる」機会を設け、年長児は「国際交流」や「ICTキッズ」を体験していく。
地域に根差した幼稚園づくり	・園の教育方針を地域（外部）に発信し、園運営の理解を得ていく。 ・「あいさつ運動」を通して、在園児や卒園児、未就園児と地域の方との繋がりを大切にし、園が地域の人にとって「安心できる憩いの場」となれるよう努めていく。 ・小学校就学を控えた子どもたちが、就学後自信を持って学校生活を送れるよう、小学校との連絡・連携を行い、相互理解を深め、「小学校へ行っても困らない教育」として、基本的生活習慣の習得や幼児期に経験・体験しておきたい教育の実践をしていく。